

平成 21 年度中国・四国大学保健管理研究集会保健・看護分科会情報交換会報告

開催日時：平成 21 年 8 月 26 日（水）16：00～18：00

場所：鳥取市白兔会館 らいちょうの間

参加人数：50 名

1. 開会行事 愛媛大学 村上運営委員長 挨拶

2. 情報交換会

1) 講演：「保健管理センターにおける色を使ったより好い環境づくり」

講師：ヒーリングアトリエ「創美館」代表 内田 美佐 先生

内容：

☆「色」持つ力や人に与える印象について

- ・ 人の印象は 3～7 秒で決まるため、身に付ける色によって印象が変わる。
- ・ 環境や設備そのものを変えなくても、シーツやテーブルのクロスの色など、小物の色を変えるだけでも印象が変わる。
- ・ 色の心理効果など各色の効用について。暖色と寒色を季節に応じてうまく取り入れると体感温度も 3℃くらい変化する。
- ・ 色の効用は、日々私達が生活している中でも知らず知らずのうちに取り入れられており、扇風機の羽の色や店の看板などが具体例として挙げられた。

☆ スタッフ自身も環境を構成する一要素であり、自分自身を心と体の両面からケアすることの大切さについて

- ・ 自分のために使う小物や肌につけるもの（石鹸など）はきれいな色目を選ぶとよい。
- ・ 自分の好きな色はヒーリングカラーになる。
- ・ 人の顕在意識は 3% で潜在意識は 97%。カラーセラピーとは 97% の潜在意識を引き出すこと。

そのほか、少し意識的に色を感じることで日常に幸せを感じる事が出来るということなど、たくさんのお話を教えていただきました。これからは、「色を味方に・色と仲良く・前向きに色を取り入れる」ということを心がけてみてはいかがでしょうか。

2) グループワーク

日常業務における情報交換を 7 グループに分かれて行った。テーマは「感染症」。

やっぱり話題は「新型インフルエンザ」に集中し、各大学で発生した具体例や対応・備蓄状況などについて、具体的な意見交換が活発になされた。

<グループワーク協議内容>

- ・ 新型インフルエンザ集団発生時の対策、および実際に発生した大学の対応について
- ・ 新型インフルエンザ発症学生への対応、および濃厚接触者の健康チェックや具体的な指導方法について
- ・ マスク・消毒液の備蓄量、および配布方法について

各グループで、主に上記の内容についての意見交換がなされた。

今後の対策や課題については、個人の感染に対する意識が低いことが指摘されており、手洗い・うがい・咳エチケットの大切さや感染予防教育の指導が重要であることが挙げられた。また、各大学が感染拡大防止に努めながらも、一様に危機感を募らせていることが伺われた。

おわりに

参加者の皆様にご協力いただき、限られた時間の中有意義な会を催すことができ、感謝いたします。